

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	SOU NEXT ジュニア志真志		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		2026年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	課題での環境設定で「できた」という成功体験を積み重ね、その具体的な成長プロセスを保護者と共有することで、児童の自己肯定感の向上とさらなる発達支援の充実を努めています。	児童の特性に合わせた適切な課題設定と環境調整を行い、自力で達成する喜び(成功体験)を一つひとつ積み重ねる支援を大切にしています。	個別の課題設定を定期的に見直し、児童の小さな成長を共有する体制を整えます。
2	送迎時や連絡帳での密な共有に加え、活動の様子を写真等で視覚的に伝える工夫を凝らすことで、保護者の不安に寄り添い、共に成長を支え合う信頼関係に取り組んでいます。	連絡帳や送迎時の対話を密に行い、日々の成長や様子を具体的に共有することで、保護者様がいつでも安心して相談できる信頼関係を築いています。	写真や動画などを活用し、活動の様子をより視覚的に分かりやすく伝える工夫を凝らすことで、保護者との情報共有の質を高めていきます。
3	事業所内の環境改善と定期的な防災訓練を徹底し、その実施状況を積極的に情報発信することで、児童が心身ともに安心して過ごせる安全な居場所づくりを強化しています。	事業所内の環境改善を徹底し、お子様が心身ともに安全・安心に過ごせる居場所づくりに全職員で取り組んでいます。	安全対策や避難訓練の実施状況をより積極的に情報発信し、保護者の皆様とともに防災・防犯への意識と安心感をさらに高める取組を進めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内面積に限りがあるため、活動内容によっては窮屈な印象を与えてしまうことが課題。公園活動や外出課題を積極的に取り入れて運動量を確保していますが、室内においても動線や配置を工夫し、よりゆとりを感じられる環境づくりをしていく必要がある。	建物の構造的な制限に加え、備品配置の固定化等で、限られたスペースを多目的に活用する工夫が不十分であったことが、圧迫感を感じさせる主な要因と考える。	不要な備品の整理と家具の再配置による動線の最適化を図り、公園活動などの室外課題を効果的に組み合わせることで、圧迫感を解消し児童が心身ともにゆとりを持って過ごせる環境作りに取り組む。
2	地域や学校との交流機会が不足しているため、社会体験を広げるための外部連携や行事計画の充実。	日々の支援業務の遂行を優先しており、外部機関との調整や、地域行事へ参加する時間の確保が不十分。	外部機関との連絡調整時間を確保し、学校や地域資源を活用した交流行事を計画的に取り入れることで、児童の社会体験と地域との繋がりを深めていく。
3	各種マニュアルや評価結果の周知が不十分のため、掲示や配布の仕方を工夫。	資料の配布のみに留まり、掲示や口頭での補足といった「保護者の視点に立った多角的な情報発信」の視点が欠けていた。	資料の配布に加え、送迎時の丁寧な補足説明を組み合わせ実施し、保護者が重要事項を多角的に確認・理解できるような情報共有に行っていく。